

工学教育の未来

-建築・環境設計者から-

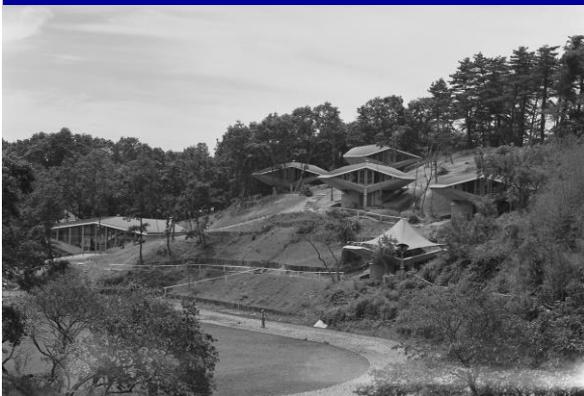
2020年3月5日

環境建築家
東京工業大学名誉教授
仙田 満

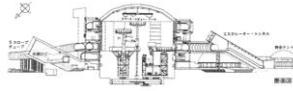
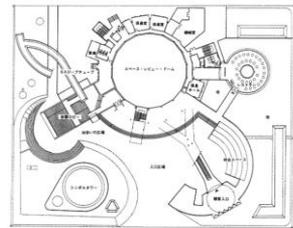
私自身のエピソードから

- 1960年 大学入学、理系と文系をねらう
- 1962年 建築家をめざす
- 1964年 菊竹清訓建築設計事務所に入所し、こどもの国林間学校担当
- 1968年 独立し、環境デザイン研究所を設立
- 1970年 宮城県中央児童館モデル園を完成
- 1972年 日本児童学会にて発表し、遊具の限界の質問を受ける
- 1974年 児童のあそびで環境の研究その1、その2、日本建築学会大会学術講演会
- 1974年 トヨタ財団研究助成を受ける

こどもの国 林間学校(1967)



大阪万博三井グループ館



宮城県中央児童館モデル児童遊園 巨大遊具の道(1969)



- 1976年 児童のあそび環境システムの調査研究開発
- 1980年～83 日本建築学会、日本造園学会、小児保健学会、日本都市計画学会、等に論文(査読付)を7本発表
- 1982年 工学博士
- こどものあそび環境の構造の研究
- 1984年～87 琉球大学工学部教授
環境デザイン研究をはじめ
- 1988年～92 名古屋工業大学工学部教授
- 1992年～2005 東京工業大学工学部大学院教授
- 2005年～2007 愛知産業大学大学院教授
- 2007年～2012 放送大学教授

こどものあそびやすい空間の構造 遊環構造 Circular Play Systems



- ① 循環機能があること
- ② その循環(道)が安全に変化に富んでいること
- ③ その中にシンボル性の高い空間、場があること
- ④ その循環にめまいを体験できる部分があること
- ⑤ 近道(ショートサーキット)ができること
- ⑥ 循環に広場、小さな広場などが取り付いていること
- ⑦ 全体がボラーラスな空間で構成されていること

走り回る、遊び回することで、こどもは多くの学びを得る

浜松科学館(1985)



ゆうゆうのもり幼保園(2005)



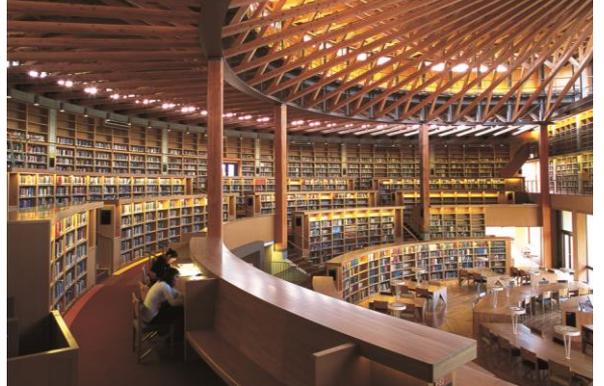
国際教養大学 中嶋記念図書館(2008)



国際教養大学 図書館棟(2008)



国際教養大学 図書館棟(2008)



広島市民球場（2009）



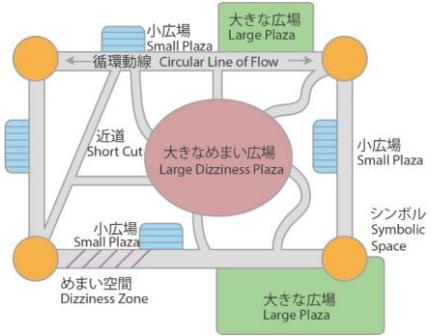
広島市民球場（2009）



広島市民球場（2009）

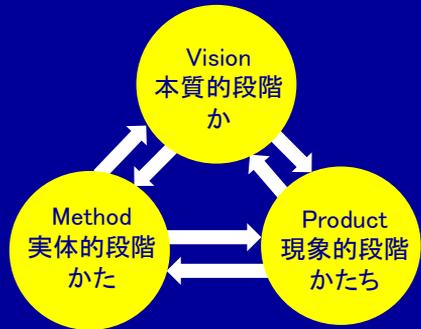


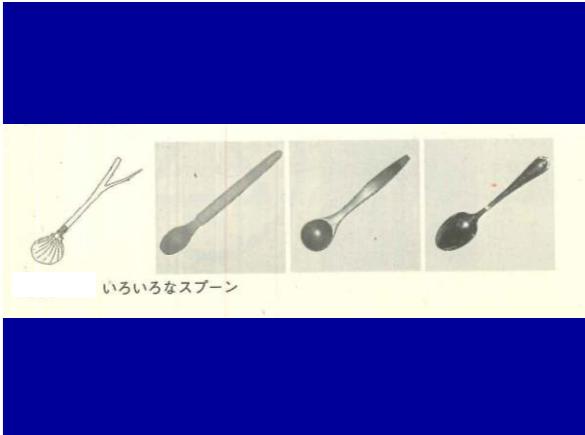
新遊環構造



困難をのりこえる人として
成長することの育成環境

設計方法論の重要性
設計の3段階論





日本大学芸術学部の遊具プロジェクト
(1972~1982)



- ・市民参加 Workshop
- ・多様な評価をうける
- ・共同設計

努力は熱中に勝てない
努力は天才に勝てる